

平成30年2月14日(水)

老球の細道392号

チームワークを乱す者

会津バスケットボール協会 室井 富仁

「TEAM」とは「Together (一緒に協力して)」「Everyone (チーム皆で)」「Achievement (チーム成績)」「More (さらに向上)」を表す言葉である。皆が一致団結協力して、さらに良いチーム成績を達成しようという集団が「チーム」であり、毎日そのために努力することを「チームワーク」という。

このような理念を持つ「チーム」「チームワーク」であるが、残念ながらそれを乱すものがどこのチームにもいる。特に弱小チームにはごろごろのさばっている。チームのことを考えず個人プレイに走る者、そしてやっかいなのが「やる気のない者」である。

やる気のない者がチームに存在すると、いくらコーチが燃えて指導しようと努力しても、チーム全体の士気は上がらず、チームワークなどはなかなかできあがらない。日常の練習も効果的に行えない。悪くすると、やる気のない者にやる気のある者が影響されてチームは崩壊する。

部員のやる気(チームに対するコミットメント)は『最強を目指すチームビルディング』(大修館)によると6段階あるという。

- ①チーム、コーチを「受け入れない」段階：自分なりに思うところがある。
- ②渋りながらも従う段階：チーム目標にコミットするのをためらい、できれば手を抜く。
- ③表向きをつくろう段階：チームのことを考えない。友達がいるから、親が言うからという理由でチームに止まっている。
- ④素直に努力する段階：チームの大切さを理解し、そのために努力する。いつもそれ以上でもないし、それ以下でもない。
- ⑤進んで取り組む段階：チーム目標を最重要課題と位置づける。それを達成するために費やす時間と労力を惜しまない。
- ⑥全力を尽くして邁進する段階：チーム目標達成のために全力を尽くすことを楽しむ。

チャンピオンチームには「素直に努力する」から「全力を尽くして邁進する」段階の意識の選手が最も多い。逆に「受け入れない」から「表向きをつくろう」段階の選手はほとんどいないと著者は言う。弱小、常敗チームは見事にこの逆である。

「選手はコーチが(熱く)思うほど思っていない」のが現実である。卓越したチーム、チャンピオンチームを作るには①から③段階の選手が多ければ厳しい。④から⑥までの段階の意識に育て上げなければならない。④から⑥の選手に恵まれたコーチは至福のコーチ人生を送ることだろう。最後に、ケガやもめごとなどの試練を受けながら、④から⑥までの段階をシーズン初めからシーズン終了まで維持できるかどうかポイントとなる。

*フィル・ジャクソン(元NBAコーチ・6回のNBA優勝):「チームがひとつにまとまっていくには時間がかかる。勝つチームに仕上げたいこうとするチャレンジは我慢の一語につきる。川の流れを急に変えたり、収穫の時期を急に早めたりすることは、実際にやろうとしてもできないのである」

*ヘンリー・フォード(米国・自動車王):「ひとつになることがスタート、それを維持することが前進、一体となって仕事することが成功」